

日本を代表する現代美術家・ 宮島達男の新刊『芸術論』刊行

～デビューから 30 年、すべての人へ贈る珠玉の言葉～

アート専門出版社アートダイバー（本社：東京都中野区、代表：細川英一）は、現代美術家・宮島達男（みやじまたつお、1957 年～）の言葉とドローイングを収めた書籍『芸術論』を 3 月 3 日に刊行いたしました。ぜひ、貴媒体にてご紹介くださいますようお願い申し上げます。

▼書籍の紹介サイト <http://artdiver.moo.jp/?p=1868>

■書籍の内容

宮島達男（1957～）は、世界 70 以上の美術館に作品が収集されている現代美術家です。美しいデジタルの数字で深遠な生命観と宇宙観を表すその作品は、1988 年のヴェネツィア・ビエンナーレで高く評価され、文字通り世界に衝撃を与えました。以来、30 カ国の 260 カ所以上で展覧会が開催されている、今日の世界で最も著名な日本人アーティストの 1 人でしょう。

一躍、時代の寵児となりながら、しかし宮島は 1995 年からは批判や雑音も顧みず、長崎原爆で被爆した柿の木の子の苗木を用いた「時の蘇生・柿の木プロジェクト」を国内外で開始。さらにアーティストとしての活動の一方で、2006 年から 10 年間にわたって東北芸術工科大学や京都造形芸術大学の副学長として教育の現場にも立ち続けます。

アートを美術館という閉じた場から地域へ、社会へ、人のなかへと拓いてきたこの 20 年余の軌跡は、今になってみれば、まさに世界のアート界の動きを先駆けるものであったことがわかります。

本書は、宮島が若い世代のためにと 2010 年から始めたツイッターへの投稿の一部抜粋を第Ⅱ部に、2001 年以降に紙誌から請われて寄稿した文章の一部を第Ⅲ部に、それぞれ収録しています。いずれも、宮島の真摯なメッセージに溢れたものです。

そして本年 2017 年が、宮島が自身の創作の根幹となる「3つのコンセプト」を 1987 年に発表して 30 年の節目になることも踏まえ、第Ⅰ部には、この宮島のコンセプトがいかなる思想哲学に立脚し、また世界の美術史の文脈を背景とするものなのかを、2編の文章として詳細に書き下ろしています。

すなわち、宮島のコンセプトはアジアと日本の精神文化の豊饒な水脈であった大乘仏教、なかんずくその精髓として歴史に千花万花を咲かせてきた「法華経」の哲理を基軸としていること。しかも、それはこの 100 年余の欧米の物理学の革命や、並行して起きた西洋美術の変容が、必然的に求めていたものであ

ったこと。

だからこそ、宮島はあえて深謀遠慮の上に仏教的な装いを避け、世界が共有し得る普遍的な言葉でコンセプトを打ち立て、ヴェネツィアから討って出たのでした。**本書で、宮島は初めて、この自身のアーティストとしての核（コア）となるものについて、丁寧に解説を試みました。**

読む者は、宮島がこの30年間、確信をもって創作に打ち込み、社会へ、教育へとかかわってきた原動力にあらためて得心することでしょう。同時に、まさしく世界がいよいよ、宮島が貫いてきた「3つのコンセプト」を求める時代に入っていることに気づかされるのです。

【本書概要】

タイトル：『芸術論』

著：宮島達男

編：東晋平、大森貴久

カラー／モノクロ、112 ページ（カラー96／モノクロ16）

掲載図版：45点（カラー、未発表作を含む）

製本：ハードカバー

本体：四六判変

デザイン：木村稔将

ISBN：978-4-908122-07-1

発行：アートダイバー

定価：本体1,600円（+税）

発売：3月上旬より全国主要書店およびWEB書店にて販売

■ 献本／読者プレゼント／取材について

- ・記事掲載に際し、資料としての献本、読者プレゼントもご用意が可能です。
- ・著者インタビュー、担当編集者への取材も対応いたします。
- ・書影、紙面イメージほか、画像のご用意ございます。

下記よりご連絡ください。

■ 本件に関するお問い合わせ先

会社名 : 合同会社アートダイバー
担当者 : 細川英一
住所 : 〒164-0012 東京都中野区本町 1-2-3
TEL/FAX : 03-5352-1023
E-mail : info@artdiver.moo.jp
URL : <http://artdiver.moo.jp>